

令和7年度インクルーシブな学校運営モデル事業 中間成果報告会

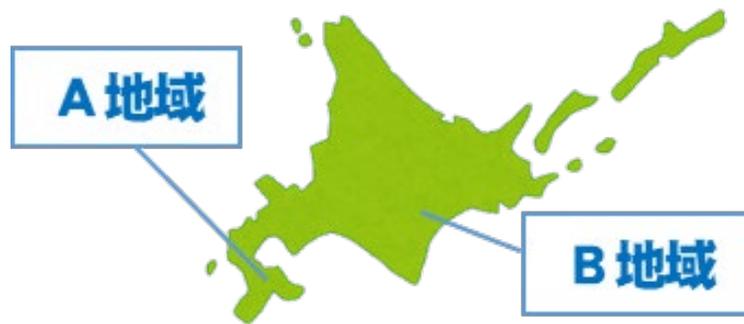
北海道

A地域（北海道七飯養護学校、七飯町立七飯中学校）

B地域（北海道中札内高等養護学校、北海道更別農業高等学校）

課題

- 広域分散型の地域特性を有する本道では、特別支援学校の立地条件の影響もあり、年に1回の行事交流等、交流の側面を重視した取組が散見
- 毎年、実施学年や実施回数、実施方法等が決まっているなど、限定的な取組に留まっている状況



目標

- それぞれの学びの場における教育の質をこれまで以上に高める。
- 障がいのある子どもの学びの場の連続性を高める。

カリキュラム・マネージャー

- 地元町村の教育長が推薦する、資質能力や実績を備え、地域事情にも精通した元校長先生を選出し、両地域に配置している。
- 事業終了後の自走に向けて、役割や知見、方法、手順などを整理し、通信の発行等を通して可視化するとともに、それぞれの役割を担う分掌等を整理している。

連携協議会

- 特別支援学校に軸足を置いた運営ではなく、連携校が共に主体的・組織的に参画できるよう管理職や教務主任に加えて、両校の担当教員も参加し、それぞれの学校の立場から取組について説明する機会を設けている。
- 教員養成大学の教授等にも構成員として参画いただき、専門的な助言や客観的な評価を得ながら取組を進めている。

R6の課題

- ・ 交流及び共同学習の実施回数確保
- ・ 生徒の発達段階、学習集団の規模、教科の特色などを踏まえた効果的な授業の検証
- ・ 自走する組織への転換に向けた両校による打合せ時間の確保と質の向上 など

北海道七飯養護学校×七飯町立七飯中学校（七飯町教育委員会の具体的な支援）

1 本事業に関わる会議等への参画

- (1) 連携協議会への参画
⇒ 年間3回、教育長、町指導主事対応
- (2) インクル実行委員会への参画
⇒ 年間10回、町指導主事、事務局職員対応

☆ 七飯町のGoogleアカウントの配付
⇒ Chat環境が整い、教員間の意思疎通、データ共有が円滑に

2 体制構築に関わる支援

- (1) 七飯養護学校特別支援教育コーディネーターの勤務環境を整備
- (2) 合同研修会実施に関わる、町立学校への周知と会場の提供
- (3) 授業見学を希望する養護学校教員を七重小学校、七飯中学校に受入

3 交流及び共同学習に関わる支援

- (1) 特別支援学校生徒の移動手段（町バス、スクールバス）を確保
- (2) 劇団四季の公演に七飯養護学校小学部児童を招待
- (3) 作品展に関わる会場の確保（文化センター、道の駅などいろいろなえ）

4 その他

- (1) 七飯町公式LINE、七飯町公式Instagramで本校の教育活動等を発信
- (2) 本校学校運営協議会のオブザーバーとして町民を推薦

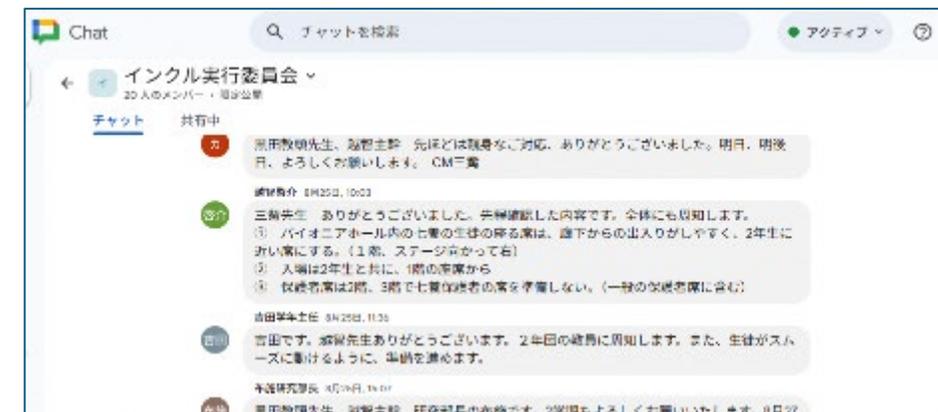
本校の教育活動は道教委公式noteで発信しています→



連携協議会の様子



本校COが中学校で勤務する様子



七飯中学校の学校祭参加に向けた打合せ（一部抜粋）



文化センターでの合同研修会



中学校に移動する本校生徒

北海道七飯養護学校×七飯町立七飯中学校の取組（柔軟で新しい授業の在り方）

- 「等身大」：ありのままの姿、もっている力に見合う「交流及び共同学習」を実施しながら、「アップデート（参加→共創→共生）」していくことで、支援される側・する側という境界が消え、一人ひとりが自分の特性を理解し、互いに助けを求め合いながら自ら環境を整えていく（互恵的な）状態を目指す。



【総合的な学習の時間】
リズム体操／ゲーム：同世代とのふれあいを目的に実施。互いの良さを理解し、社会で共に生きる一員として認め合い支え合う気持ちの育成。

参加：すでに用意された枠組みに加わる状態

共創：互いの特性を組み合わせて、誰もが排除されない新しい仕組みや価値を編み出そうとしている状態

共生：互いに助けを求め合いながら自ら環境を整えていこうとする状態



【保健体育】
インクルーシブサッカー：個々の技能に応じたゴール距離の設定（5m～45m）。障害の有無に関わらずスポーツに親しむ資質・能力の育成。



【音楽】
手話歌「翼をください」（表現）：間接交流（動画）と直接授業の組合せ。歌詞の解釈を深め、歌唱・手話を選択し表現する能力の育成。



【保健体育】
ポッチャ／モルック：感覚過敏の生徒にモルック棒を工夫。体育理論（共生社会におけるスポーツの価値）と関連付けた資質・能力の育成。



【総合的な学習の時間】
クリスマス屋台広場：過去の学習を参考に中学生が6つの屋台を設定・準備。両校生徒が交代で運営するなど、主体的に取り組む態度の育成。



【数学×作業学習】
ポップアートカード：図形を学ぶ際に紙すき製品を提供。メッセージカードによるやりとりを行うなど、他者と関わろうとする意欲の育成。



【美術】
けっちゃんづくり：間接交流（デザイン画・鑑賞）と直接交流の組合せ。製作工程の工夫と、材料・用具の特性に応じた表現力の育成。

- 「音楽」「保健体育」「美術」は言葉だけでは伝えきれない感情や思考を、身体や音、色、動きを通じて形にするプロセスが共通している。
- **参加**では**交流することがメイン**であったが、**共創**では「交流及び共同学習」を**単元のまとまりの中で捉えて指導**したり、中学生が主体的に活動を検討したりしている。
- 国語科「書写」や社会科「地理的分野」における調査活動など、**知的障害のある子どもたちの学習上の特性と親和性の高い活動**で「交流及び共同学習」の実施を検討
- 本校中学部と七飯中学校で取り組んだノウハウを生かして**校種を拡大すること**や、生徒の教育的ニーズや得意なことに着目した**個別の学習機会**を検討

北海道七飯養護学校×七飯町立七飯中学校の取組（専門性を高めた授業実施のための体制構築の在り方）

特別支援教育COの外勤派遣

【業務内容等】

- 令和7年度の1学期末から週に1度、七飯中学校で勤務
- 主な内容として、通常の学級や特別支援学級への助言、校内研修会の実施、スクリーニングなどに取り組む。
- 令和7年度の3学期からは、週に1度、七飯小学校で勤務。



【実施の効果】

- 昨年度の課題であった「教職員の深い交流が進まない」という状況に対し、週1回の定期的な勤務形態をとることで、単なる研修会以上の「日常的な顔の見える関係」が構築された。これにより、設置主体の違いによる心理的・物理的な距離が解消された。
- 生徒一人ひとりの特性に合わせた具体的なアプローチが可能になった。
- コーディネーターが現場の状況を把握した上で研修をリードすることで、理論と実践が結びついた生きた専門知識が校内に蓄積されてきている。

互見授業の取組

【概要】

- 小学校、中学校、高校、特別支援学校の教員が他校種の授業を見学。
- 近隣学校から特別支援学校を見学：2
- 特別支援学校から地域の学校を見学：21

【実施の効果（感想）】

- 小学校を見学しました。低・中学年を見学しましたが、一斉授業での児童の様子や説明の仕方などたくさんのお話を勉強することができました。また、小学部の子どもたちとどんな風に交流できるかなどを考えるきっかけにもなりました。
- 中学校の体育の授業を見学しました。授業の中で少人数のグループを複数作り、年間を通してそのグループで活動をしている取り組みが参考になりました。生徒同士の関わりや運動のスキルなど勉強になりました。

【課題】

- 多くの教職員が参加できるシステム
- 持続可能な実施の在り方を検討

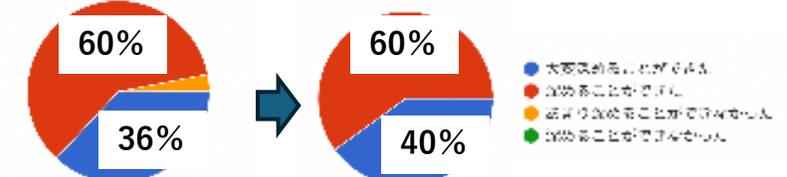
合同校内研修の実施

【概要】

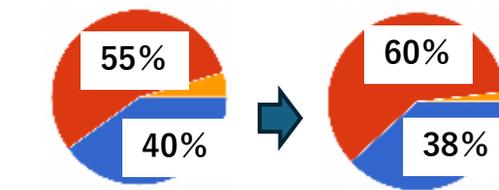
- 第1回「インクルーシブ教育の視点を踏まえた体制構築～七飯町だからできるポジティブ行動支援を中心に～」参加校8、参加者124名
- 第2回「交流及び共同学習の充実に向けた体制構築等の在り方について」参加校10、参加者125名

【実施の効果】

Q1 「インクルーシブな学校運営モデル事業」への理解



Q2 「インクルーシブな学校運営モデル事業」への興味



【感想（一部）】互いの立場や状況を踏まえながら、同じ地域にある学校や行政間で、理念の共有の実現に向けて今後、持続可能な体制づくりに向けて協力しながら取り組んでいけるとよいと思った。障がいの有無に限らず、誰もが共に学べる、助け合える関係づくりは、これからも必要だと改めて考えることができた貴重な研修になった。

○ 事業終了後を見据え、現行の教員配置や時間割の中で、この体制を維持するためのシステムづくり

→ 町内教育関係者を構成員とする会議体を設置するとともに、連携協議会、インクル実行委員会の役割、実施回数等の検討。

→ 町内にある小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の更なる連携の強化

令和7年度「交流及び共同学習」の実践から

七飯中学校生徒の感想（一部）

○ 手話歌「翼をください」

・本番しか一緒にできなかったけど、音楽を通して一緒に一つの物事を完成させることを体感できたので良かったと思いました。
 ・音として話せなくても行動として手話を通して目で会話することができること、会話には様々な手段があること

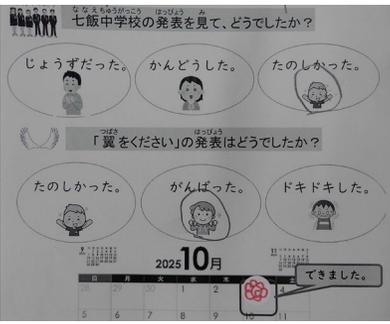
○ ポッチャ／モルック

・僕は、小学生の頃、障害の持っている人を少し避けていたと思いますが、この交流や、中学生になってからはその意識は変わりました。たとえ、障害を持っていたとしても、同じ人権を持ったお友達だと思います。
 ・あまり関わったことの無い子たちと交流して、個性は人それぞれでみんなそれぞれの個性で頑張っている事がわかった。多様性の社会にしていくことはまだまだ時間がかかると思うけど、こういう体験で自分や他の人を理解していけるといいなと感じた。

○ 保健体育の視点から

・音楽や音、ダンスなどが苦手だと聞いていたので、ポッチャでは大きい声で喜んでしまったところもあったが、できるだけ声ではなくジェスチャーで喜ぶようにした。
 ・〇〇さんができたときだけでなくみんなができたときも喜んで、〇〇さんにもみんなと同じように接して違いをかんじないようにした。
 ・障害の有無関係なくとにかく緊張はすると思うけど「自信」を持って関わるのが大事

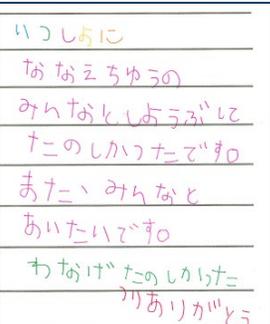
七飯養護学校生徒の感想（一部）



翼をください



ポップアートカード



クリスマス屋台

令和7年度成果発表会から

1 七飯中学校と七飯養護学校の教職員の感想の相違点

視点	七飯中学校の教職員	七飯養護学校の教職員
生徒の変容	生徒の視点が「自分→他者→全体」へと広がり、日常生活にも良い影響が出ていることを実感。	子どもたちの純粋な感想や笑顔から教員側が学ぶことが多く、生徒の「変容」が大きな励み。
教育活動	通常級の生徒と支援学級・養護学校生徒との関わりの深め方を模索。	「互恵的依存（あなたがいないと）」の視点や、障害の有無を超えた共存の重要性を強調。
組織・運営	負担感のないマニュアル化、中学校と養護学校が一つの目的を共有する一体感を評価。	業務のシステム化による属人化の解消、研修を通じた他校の先生との顔の見える関係を重視。
今後の展望	小学校や高校など、さらに枠組みを広げたいという拡大志向。	学部を超えた連携や、夏祭り・防災など「地域・社会生活」での実践への展開を期待。

2 2校（七飯中・七飯養）以外の参加者からの感想まとめ

① インクルーシブ教育の質と価値

「物差しの共有」：評価の基準は違えど、同じ物差しで子どもを看取る機会ができたことに価値がある。
 ・教育の底上げ：誰もが安心して学べる体制づくりは、困り感の早期発見や多様性を認め合う文化を育て、教育全体の質を底上げする。
 ・等身大の実践：パフォーマンス的な一過性のイベントではなく、「等身大」「持続可能」が意識されている点が素晴らしい。

② 継続性と体制構築への提言

・システム化と伝達：異動する教員が「伝書鳩」となって他地域へ広めることや、教育課程（年間指導計画）への位置付けが重要。
 ・他校への波及：町内の小学校・高校、あるいは近隣市町村へとこのモデルを拡大してほしいという要望が多数。
 ・専門家の活用：コーディネーターの柔軟な活用や、外部助言者の視点を取り入れた振り返りが有効。

③ 保護者・地域・卒業生の視点

・親としての安心：理屈ではなく「子どもの笑顔」が何よりの証拠。小規模から着実に広げる手法を支持する。
 ・地域への広がり：町内会長やPTAからも、学校だけでなく企業や地域行事にもこの視点を広げるべきとの声が上がっている。
 ・学校環境の改善：教員免許がなくてもサポートできる人材（地域住民等）が関わることで、学校がより明るくなるのではないかと。

3 全体を通じたキーワード

- ・「自走・持続」：無理のない範囲で、システムとして継続させること。
- ・「自然体」：お世話・被支援の関係を越えた、生徒同士のフラットな関わり。
- ・「波及」：七飯町での成功例を、十勝・渡島、そして全道・全国へ広めること。

北海道中札内高等養護学校 × 北海道更別農業高等学校の取組（柔軟で新しい授業の在り方）



オンラインを使用した共同学習（カルチベーション）



教科領域における本校を会場とした合同学習の様子（上：美術、左：音楽）

北海道中札内高等養護学校 × 北海道更別農業高等学校の取組 (専門性を高めた授業実施のための体制構築の在り方)



共に学ぶ会の様子：教職員同士の特別支援に関する学び合いの場の創造



両校の生徒会執行部の連携の様子（プレゼンテーションの効果的な方法について更農生から学んだ時の様子）



初任段階層職員研修におけるチームティーチングの様子（初任段階層の本校職員が更別農業高校の教員と共に授業参加）

令和8年度（事業3年目）：令和7年度の事業の継続と、令和9年度以降の両校共通の（仮称）「インクルーシブな学校運営計画」作成し取組の継続を図る予定 **👉持続可能なインクルーシブな学校へ**

- 地域（中札内村）の協力について
- ▶ 中札内村教育長の役員参加（連携協議会委員）
 - ▶ 中札内村所有のスクールバスの提供
 - ▶ 更別村教育委員会との連携強化

今後に向けて

両地域共通

A地域(七飯)

B地域(中札内)

内容		R 6	R 7	R 8	事業終了後
授業づくり	学校間交流	総合的な学習(探究)の時間等による学校間交流			多様な共に学ぶ場を教育課程に位置付ける
	単元内で柔軟に行う交流		音楽・美術・体育	新たに単元を開発して実施	
			音楽・美術・書道	年間指導計画の単元を基に実施	
	学校設定科目「カルチベーション」				
	日常的な交流(行事含む)		資格取得(食品衛生責任者講習)		合同運営会議等の定期的な開催 コミスク等による評価
			生徒会、学校祭、体育大会		
体制構築	運営組織	連携協議会を中心とした組織	連携協議会に加え、両校合同の組織を設置	連携協議会、合同組織の役割を各分掌等に位置付ける	
	授業実施		特別支援学校のコーディネーターによる連携校の授業支援		人事異動を含めた柔軟な教員配置
		連携校間のT・Tの実施	乗り入れ授業(兼務検討)		
			互見授業の実施		地域の教育資源の活用
			連携校の教育資源の活用(人材バンク含む)		
	専門性向上	両校の強みを生かした合同研修会の実施(コンパクトゼミ、共に学ぶ会など)			地域での合同研修会